

1 学校教育目標
「県立高等学校における教育指導の重点」及び「人権教育取組の方向」等を基盤に据え、本校の三綱領「正大・剛健・寛厚」のもと、生きる力の育成を通して、求めて学び志を成す生徒の育成と活気溢れる学校づくりを目指し、次の5項目を目標とする。

2 本年度の重点目標
(1) 人権尊重の精神の涵養と基本的生活習慣の確立に努め、豊かな人間性の育成を図る。 (2) 主体的に学習に取り組む態度を養い、一人一人の進路目標達成に応じた学力の向上を図る。 (3) 体力の向上、心身の健康の保持増進及び安全教育の充実を図る。 (4) 地域の進学拠点校として、地域、保護者、生徒の信頼と期待に応え、入学者の増を図る。 (5) 学校における働き方改革を推進する。

3 自己評価総括表

大項目	小項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
学 校 経 営	開かれた学校づくり	公開授業の推進	<ul style="list-style-type: none"> 公開授業週間、および「教育の日」などを活用して、保護者や地域の方々に授業を積極的に公開する。 近隣の小・中学校、県内の高校にも案内し、連携を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 教務部が立案し、年間2回以上の公開授業等を実施する。 教務部が立案し、体験入学、中学校関係者説明会を実施する。 	B	<p>【△】年間2回の公開授業を行った。新型コロナウイルス感染拡大防止のために保護者や地域の方々への呼びかけはしなかった。</p> <p>【○】中学校職員向けの説明会を7月21日に実施した。体験入学は8月3日、4日に分散して実施した。中学生約280人、中学校職員・保護者約80人の参加があった。日中の参加が困難な中学校職員・保護者向けに8月5日午後7時より天草市民センターで説明会を実施した。</p>
		広報活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 学校HPの更新・充実を図る。 生徒の活動の様子を、学区内中学生や地域の方々に積極的に情報発信する。 中学校を訪問して、学校紹介を行う。 SSH活動の普及と浸透を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> SSH研究部が学校HP更新方法の周知を行い、更新頻度を高める。 教務部が中心となり、学校紹介DVDを用いた広報を行う。 教務部が中心となり、天高地域新聞を作成し、地域・中学校に配布する。 アンケートを実施して、広報活動に反映させる。 SSH通信を年6回以上発行する。 生徒の研究内容を地域に発信する場を年2回以上設ける。 	B	<p>【○】年度当初にHP更新方法の周知を行ったが、更新頻度は昨年を下回った。</p> <p>【○】18の中学校で合計1,500人の生徒に対して本校のPRを行った。</p> <p>【○】天高地域新聞「求學志成」を校区内中学校やコミュニティセンターなどに配布した。</p> <p>【○】SSH通信を現在までに4回発行している。年度末までに2回発行する。</p> <p>【○】7月末にASⅢ研究成果発表会を実施した。2月末にASⅠ・Ⅱ研究成果発表会を実施する。</p>
		学校評議員会の充実	<ul style="list-style-type: none"> 学校評議員を含めた活発な意見交換の促進。 	<ul style="list-style-type: none"> 本校の取組について事前に資料を提示するとともに各種広報を随時配付し、協議のための情報提供を行う。 学校行事や公開授業等を積極的に案内し、指導助言をいただく。 	B	<p>【○】学校評議員への資料の事前配付や説明資料に写真やグラフ等を増やし、視覚的把握がしやすいように改善した。</p> <p>【△】新型コロナウイルス感染拡大防止のために全ての行事、公開授業の案内はできなかった。</p>
		育友会との連携	<ul style="list-style-type: none"> 育友会総会や地区別懇談会、学級懇談会の充実を図る。 学校行事、諸行事への保護者の積極的な参加を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 総務部及び各学年が立案し、学校全体で取り組む。 メール配信サービスの利用と学校ホームページを活用し、積極的に学校行事への参加を促す。 	B	<p>【○】育友会総会も中止となり書面での表決となった。しかし育友会役員、会員の御協力で各種委員会の実施・決定や毎月の役員会を実施することができた。地区別懇談会、学級懇談会は実施できなかった。</p> <p>【○】メール配信を利用した呼びかけはできた。行事の実施ができなかったが各役員会での呼びかけで多くの方々へ連絡を取ることができた。</p>
	特色ある学校づくり	SSHの推進と地域課題解決に貢献する科学技術人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> 地域課題解決に必要な多様な能力の全校での育成を図る。 主体的な生徒の研究活動を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員研修を年間で2回以上実施し、全職員でSSH事業を共通理解する。 課題研究ルーブリックを軸とした評価を年2回実施し、指導の検証及び改善を行う。 課題研究ルーブリックの運用に際しては数値目標(4段階評価で平均2.5以上)を設定し達成のための支援を行う。 AS担当職員は「指導」ではなく「支援」に徹することを共通理解してもらう。 毎回のASの冒頭に担当者とのディスカッションを行い、主体的な研究活動を促す。 	B	<p>【○】6月末に今年度のSSH事業と10月末に探究型授業の研修を実施した。</p> <p>【○】ASⅠ・Ⅱで2回実施できた。</p> <p>【○】ASⅠではテーマ設定と研究計画作成、ASⅡでは先行研究調査と研究方法について評価し、ともに全生徒の平均が2.5以上となった。</p> <p>【○】ASでの指導は、授業冒頭に必ずディスカッションの時間を設定し、支援に徹している。</p> <p>【○】オンラインでの開催のため、生徒主体の部分は減ったが、生徒ができる部分は生徒主体になるように実施した。</p>

				<ul style="list-style-type: none"> ・研究発表会の運営は生徒の実行委員を主体として行わせる。 		
	安全管理の取組	不祥事防止	<ul style="list-style-type: none"> ・不祥事防止に向けて全職員で主体的に取り組む雰囲気醸成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修を定期的実施する。 ・職員朝会等を通じて不祥事防止・適時リスク管理についての啓発を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 【○】学校徴収金の取扱をはじめ、体罰や飲酒運転などの不祥事防止について、職員研修と職員朝礼において意識喚起を行った。
	教育環境の整備	学習環境の拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の主体的な学びを推進し、自学時間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室での黙学と学習室での相互学習等を促して、生徒が自らの実態に合わせて学習する姿勢を育てる。 ・生徒が立てた学習計画をもとに担任・副担任で面談を行い、アドバイスを与える。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 【○】3年生では、自学習慣が身につく、受験に向けての取組が充実した。 【○】1、2年生では、毎週学習計画を立て、やるべき事を具体化し、自学に繋げることができた。
	学校改革	業務改善（働き方改革）	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の精選と業務の削減、負担の公平化、計画的な業務遂行に努めることで働き方改革を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各分掌の業務内容、所要時間、人員等について現状を把握し、効率化を進める。 ・「部活動の指針」に則り、部活動の休養日及び活動時間等の徹底を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 【△】月毎の超過勤務時間とその従事業務内容を把握し、業務改善の資料にしている。生徒に向き合う時間は従来通りであるが、業務のスリム化、効率化及び職員研修等で意識改革を進めた結果、学校全体としては超過勤務時間が昨年比90%程に減少した。しかし、超過勤務時間の長短に偏りが見られる。業務内容に対する人員配置の見直しが必要。 【○】指針に則り運用を行うことにより、休息日の確保や活動時間の徹底ができた。
		授業改革	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改革のための職員研修を実施する。 ・授業評価を行い改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改革プロジェクトリーダーを中心に、多様な授業形態の実践提案および各種発信を行う。 ・2学期末に授業に関する生徒および職員調査を行い、改善状況を把握する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 【○】10月21日に授業改善に係る職員研修を実施した。その後の公開授業週間で研修成果を実践した。5つの教科のICT活用の例を学び実践できた。一人一台端末導入を控え、その効果的な活用アイデアを学ぶ好機となった。 【○】2学期末に全生徒を対象に授業評価アンケートを実施した。生徒の声も参考にして授業の改善に取り組んだ。
学 力 向 上	学力の充実	家庭学習習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の流れに見通しを持たせ、課題や提出物等の管理を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手帳（Foresight）に取り組むべき課題や学習計画などを記入させ、個にあった学習スタイルの確立を目指す。 ・学習計画を実行しているか、日々確認し、来ていない生徒には計画の見直しや立て方について面談を行う。 ・年間2回の宅学習時間調査を行い、学年ごとに対策を講じる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 【○】3年間を通して日々の計画や振り返りを行い、計画的に行動する習慣づけを実施した。学習計画をもとに実行できているか、面談を通して個々にあったアドバイスをを行った。 【○】休校期間中にはFORMSを活用して生徒の取組状況を把握し、適宜助言指導を行った。 【○】家庭学習時間調査は10月に実施した。（今年度は10月のみ実施）1、2年生は昨年度の同時期に比して学習時間は増加している。3年生も含めて継続的な自学力の育成が課題である。
		3年間を見通した指導計画	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスを作成し、見通しを立てた指導を行う。 ・学年会等による職員の情報の共有及び連携。 ・定期考査の個人成績の変動がわかる表を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に各教科でシラバスを作成して、1年または3年間の授業計画を全職員で確認する。 ・学年会等で生徒についての情報交換を活発に行い、他の授業の様子も把握できるようにする。 ・定期考査の個人成績の変化を見ることができる表を生徒に試験ごとに記入させ、次年度の担任に引き継いでいく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 【○】年度当初にシラバスを配付し、各科目の1年間の計画・評価について周知した。休校にともない、年間シラバスの見直しが必要であったが、家庭学習の指導計画をもとに生徒・教員共再確認、徹底することができた。 【○】年度当初に、支援を必要とする生徒について共通理解を図った。その後、学年会で把握した生徒の様子等をもとに、共通した支援・指導ができ効果的であった。 【○】8月と12月に各学年で学力検討会を行った。7月、11月の模試等の成績状況を受け、学習内容の定着度を確認し、授業の進捗状況の調整や指導法について検討した。
		習熟度別学習の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの学習到達度に応じた学習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語・数学・英語で、学習到達度に応じた展開授業を行い、定期的に到達度を確認し、クラス替えを行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 【○】習熟度別にクラスを展開している教科では、定期考査・模試等の結果を受け、定期的にクラスを再編成しており、効果的な授業が展開できている。

	教員の指導力の向上	学習指導法等の工夫・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・教科で年間2回以上の研究授業を行う。 ・教材研究の質の向上を図る。 ・作問力の向上を図る。 ・模試分析力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科で短期・中期・長期的なテーマを掲げ授業に臨む。 ・生徒には、具体的にどう努力すべきかを明確に提示する。 ・定期的に教科会で検討する。 ・九州大学、熊本大学、熊本県立大などの入試問題分析を5月までに行い、生徒へフィードバックする。 ・先進校視察や予備校研修を実施する。 ・模試データリリース後に全職員で結果を確認し模試分析シートをもとに教科会で改善策を検討する。 	<p>【○】10月21日に行った職員研修（授業改善）を踏まえた公開授業週間を、11月4日～13日に設けた。3学期は1月に、積極的に他の授業を見学に行く期間を設けた。</p> <p>【○】各教科会の中で、定期的に授業の質の向上のための協議や査問問題検討、および今後の指導方針等についての意見交換を行った。</p> <p>【○】1、2年生については全ての模試で各教科分析会を実施。3年生についても9月実施分まではすべて実施。模試後の指導計画の修正や個別対策等で生徒へ還元。定期考査での作問にも思考力を問う問題を積極的に取り入れた。</p> <p>【×】感染症防止による県外移動自粛のため、校外視察は実施できなかった。</p>
キャリア教育・進路指導	3か年の一貫した指導のもとでの進路目標の達成	第一志望現役合格の達成	<ul style="list-style-type: none"> ・難関大学合格5名以上を含め、現役による国公立大学75名以上を目指す。 ・1、2年生は国・数・英で模擬試験において偏差値52以上を目指す。 ・3年生の全科目で模擬試験において平均偏差値50以上を目指す。 ・センター試験の得点が全科目全国平均点以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路検討会を年間に3年生5回、2年生2回、1年生1回以上行う。 ・雛鵬プランに沿って、授業以外に自学や課外の時間を利用し、計画的に受験基礎力を養成する。 ・二者面談や教科面談を行う。 ・小論文対策の早期化と継続を図る。 ・総合型・学校推薦型入試対策として専門分野の強化を図る。 	<p>【○】進路検討会は全て実施。総合型・学校推薦型選抜の受験生徒について、検討後の指導をスムーズに行うため、実施時期を修正。学校推薦型対象選考会を8月から9月に変更し、実施した。</p> <p>【○】翌週の目標及び計画を金曜日朝自学の時間に行い、週末から計画に沿った学習を実施。担任との面談等にも利用し、アドバイスを行った。</p> <p>【○】模試の結果を受けて、各学年で二者面談を実施。3年生については、進路検討会の検討結果を受けて、教科面談等も実施。2学期の面談週間は必要であると考えられる。</p> <p>【○】小論文・志望理由書指導については、Webによる外部講座を利用し、12月末まで視聴できるようにした。利用者が少なかったことが課題。</p> <p>【○】推薦入試対策については、全国の過去問を入手し、進路指導室で教師が自由に利用できるようにした。これまであまり過去問の保管が少なかったものも、今後利用できるようにした。</p>
	総合的な探究の時間の活用	総合的な探究の時間の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の興味関心を見だし、自己の進路実現に向け、その意識を高めさせる。 ・自分の探究した事柄について、根拠を示して発表することで、表現力を身につけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次に取り組んだ天草サイエンスⅠの課題研究を出発点として、大学研究や論文読解、志望理由書作成等を実施する。 ・探究した内容について、クラス内での発表及び修正等に取り組ませる。 	<p>【○】当初予定していた内容については、計画的に実施できた。</p> <p>【△】取組をとおして、自身の興味関心を見だし、自己の進路実現に向けた意識を高めることができた生徒は、半数を超えることができなかった。</p> <p>【○】表現力については、おおむね身に付けさせることはできた。</p> <p>【○】総探とASとの連携が十分とは言えないまでも、できたことについては、成果とらえている。</p>
	多様化する生徒の個々の進路目標への対応	進路意識の高揚・啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年、年間20回程程度の進路情報を提供する。 ・定期的に学年通信や進路通信を発行し、進路情報を提供する。 ・各学年の進路講演会、大学出張講義、予備校や大学によるガイダンスを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路の手引き『求學志成』と、「進路ニュース」を作成する。 ・生徒に進路選択の幅が広がるよう情報を提供するとともに、保護者とも情報共有をできるようにする。 ・学年ごとに時期、段階とニーズにあった内容で講演会を実施する。 ・受験形態を継続的に研究し、個々の生徒の実情に合わせた進路指導を実施する。 	<p>【△】進路資料「求學志成」用いてのLHRを実施したが、今年度は回数が少なく、計画通りの進路研究がすすめられなかった。今後は大学訪問を絡めた進路研究を実施したい。</p> <p>【△】進路ニュースの発行は、学年通信に任せられた部分が多かった。</p> <p>【○】1、2年生の進路講演会については、感染症防止の観点から、時期をずらしての実施であった。多くの生徒に、今やるべきことの確認と、今後の学習意欲の向上に向けた意識付けの重要性を感じさせる機会とした。3年生では、感染症予防の観点から進路講演会の実施を見合わせた。3学年通信を毎週発行し、進路に対する意識の向上を促すことができた。</p> <p>【○】進路指導室にPCを3台導入し、生徒の進路研究や出願に利用できるようにした。生徒の利用頻度も大きく向上した。</p>

		進路希望に応じた個人指導	<ul style="list-style-type: none"> ・担任による二者面談を年間6回以上実施する。 ・三者面談を活用し、保護者の意向を確認する。 ・教師が教科指導力を高いレベルで養い、いかなる大学進学に対しても積極的指導ができる実践力をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学期に2回以上は担任が二者面談を実施する。 ・夏季休業中の家庭訪問や三者面談を活用し、保護者の意向も確認しながら、進路目標を設定していく。 ・個人の目標や特性を把握して、進路選択の幅を広げていく。 ・大学や入試などの情報を学年、各教科等へ積極的に提供する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 【○】 充実した面談により、生徒が進路選択に対する視野を広げることができた。 【○】 2年生は2学期から難関大対策朝課外を実施。上位層の競い合い、学びあいから成績の新調が見られた。 【○】 1、2年生を対象にした難関大希望者対象の後援会を実施し、難関大学を目指すことの意義などを理解させ、今後の学びのロードマップを意識させた。 【○】 模試結果や、大学入試選抜要項の情報更新に関して速やかに提供した。 【○】 生徒の受験報告書をWebでの提出にすることで、データベース上の受験情報の閲覧が可能になった。
	高大接続改革への対応	大学入学共通テスト等入試制度改革への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・大学入学共通テスト等入試に円滑に対応する。 ・自ら課題を求めて、学ぶ生徒を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新入試制度における本校の体制を整備し、計画的に運用する。 ・英語外部資格検定試験の活用および受験計画の立案を行う。 ・ポートフォリオについて研究し、受験の際の利用を行う。 ・総合型・学校推薦型選抜について、研究を行い、生徒の実情に合った受験指導を行う。 ・1、2年生対象に朝自学を実施し、学習計画から自学力の育成を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 【○】 各選抜試験が、コロナ禍の影響で日程変更や実施形式の変更が多くなったため、変更に関する情報提供を速やかに行った。 【○】 調査書の形式変更に伴う生徒の取組についての記入要領などを確立し、総合型選抜、学校推薦型選抜への生徒のポートフォリオの内容ができるだけ反映されるように工夫した。 【○】 週最終日の朝自学の時間に学習計画を行わせる取り組みを行った。現状を認識し、必要な学習量を確認するとともに、日々の学習計画に割り振ることで、確実に実施できるような計画性を養った。
生徒指導	自律心の育成	生徒会活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自ら運営に携わる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回以上の一斉委員会を開催する。 ・毎月、生徒朝会を実施する。 ・生徒指導部職員が指導助言を行う。 ・一斉委員会の内容を、生徒朝礼で取り上げ、全校生徒への委員会活動の周知を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 【○】 コロナ禍における影響を大きく受けながらも、限られた時間と条件の中で、これまでの体育大会と文化祭を融合させた「雛鷲祭」を生徒会執行部が中心となり実施することが出来た。 【○】 生徒が主体となって、生徒一斉委員会を運営し、各委員会で特色ある活動を行うことが出来た。 【○】 全校生徒を集わせる従来の生徒朝礼は実施できなかったが、代わりに全校放送を用いた新しい形での生徒朝礼を行うことが出来た。その際、学校行事についての周知やや表彰など効果的に行うことが出来た。
		部活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の効率化を図る。 ・顧問割当の再編を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各部活動で活動内容を精査し、効果的な練習に取り組む。 ・大会引率の顧問が不足する場合、担当部活動の枠を越えて補う。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 【△】 コロナの感染状況次第で活動が制限されたり、突発的に活動内容を変えざるを得ない状況が発生したり、効果的な練習ができない場面が見られた。 【△】 大会の延期や中止が相次ぎ、引率顧問が不足する状況は発生しなかったが、顧問不足の根本の改善には至っていない。
		ボランティア精神の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア委員会の活性化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア計画の立案及び実施を行う。 ・外部依頼のボランティアに限らず、ボランティア委員会を中心に据え、奉仕活動を企画し積極的に呼び掛ける。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 【△】 コロナ禍の影響を受けてボランティア活動に大きな制限を受け、これまで実施できていた活動ができない場面が見られた。 【○】 7月に発生した熊本豪雨災害後、迅速に救済募金を企画し、全校生徒に協力を呼び掛けた。
	基本的生活習慣の確立	交通モラルとマナーの向上	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回以上の登校指導の実施 ・原付免許取得者集会を毎月実施する。 ・交通違反0を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学期毎に生徒指導部を中心に登校指導を行う。 ・原付免許取得者集会を実施して、具体的な事故・違反事例を取り上げて、交通規範の高揚に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 【○】 生徒部を中心に、交通指導を行い、地域の交通渋滞緩和にも貢献した。 【○】 毎月の原付免許取得者集会をとおして交通規範意識は高まった。結果、交通違反による特別指導者並びに重大事故による負傷者はいなかった。
		規範意識の高揚	<ul style="list-style-type: none"> ・年5回以上の整容指導を実施し違反0を目指す。 ・生徒会、生活委員会を中心としたあいさつ運動の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業、掃除といった日常生活での場を指導の場と捉え、全職員でルール遵守の意義を生徒に伝える。 ・生徒会、生活委員会を中心に、あいさつ運動を実施し、気持ち良いあいさつが飛び交う教育環境を整える。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 【○】 整容指導だけではなく、様々な場面で生徒の規範意識を高めるような職員の言葉がけが見られた。 【○】 整容指導は、年間8回実施した。各学年の生徒指導部が中心となって、共通認識のもと指導を行った。違反者については、学年指導を行った。 【○】 頭髮服装検査は、年間8回実

						<p>施した。各学年で基準の周知や、指導方法の再確認を行い、全職員で共通認識のもと指導した。違反者については、学年指導を行った。</p> <p>【○】生活委員会が中心となって、美化コンクールを企画、実施し校内美化を意識づけた。</p> <p>【△】新型コロナ感染予防の観点からあいさつ運動の実施には至らなかった。</p>
人権教育の推進	命を大切にすることを育む指導	校内の人権教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 生徒・職員の人権感覚の高揚 	<ul style="list-style-type: none"> 人権講演会や人権LHRを計画的に実施する。 各種校外研修会への職員の積極的な参加を促す。 	B	<p>【○】人権講演会は中止したが、人権LHRを各学年で実施できた。</p> <p>【○】コロナ禍の中ではあるが可能な限り参加した。</p>
		命を大切にすることを心の育成	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に「命を大切にすることを育むことの重要性について理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「命を大切にすることを育むこと」について考えさせる集会・LHRを企画実施する。 	B	<p>【○】生徒の言語環境に対する指導として、1学年では「アサーション」について演習形式でLHRを実施した。</p>
		教育相談の充実	<ul style="list-style-type: none"> 学期に1回の生徒理解研修、生徒支援委員会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> スクールカウンセラーも活用し、現状を分析して担任に指導助言を行う。 	A	<p>【○】生徒理解を図るために1学期は文書により職員間で生徒情報を共有し、2学期には生徒理解研修を実施した。生徒の状況把握や協議を行うことができた。</p> <p>【○】カウンセリングの時間が年間75時間と十分に確保され、生徒や保護者及び教職員ともに充実した相談を行うことができた。学校生活への不安感から心身の不良を起しやすいために不安感を軽減でき、カウンセリング効果が得られた。</p>
	豊かな人間性の育成	読書の推進	<ul style="list-style-type: none"> 貸出数の1人当たり12冊以上を目指す。 「朝の読書」を徹底させる。 公共図書館や書店も積極的に利用し、将来的な読書習慣を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 知的好奇心や情操に訴える資料の選定を行い、「図書館だより」年10回発行や毎月HP更新を利用した広報活動を行う。 全職員、全生徒で一斉に行う。 蔵書検索サイトを使用させ、教科と連携し活用する場面を多く設定する。 	B	<p>【△】生徒貸出冊数が減少している。現在の日課になって生徒の読書習慣がなくなってきた。</p> <p>【○】職員の推薦・リクエストの図書を揃え、教職員による読書活動推進に繋げている。職員室文庫も20日周期で更新している。</p>
		人生観・職業観の育成	<ul style="list-style-type: none"> 人生観・職業観を養う講演会を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 同窓会、育友会とも連携して、地域の方々や同窓生を講師に招く。 HRでの活動を通じ、日常の指導の中で生き方や在り方について考える機会を増やす。 	B	<p>【×】新型コロナ感染拡大防止のため実施できなかった。</p> <p>【○】毎日のSHRで、生徒の気になる行動に対する注意喚起を学年で統一して行った。</p>
		道徳教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 学校の教育目標に基づき教育活動の全領域において道徳教育を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「人間としての在り方生き方」に関する講演会を開催する。 情報モラル教育を行い、SNS等への書き込みにおけるモラル向上を図る。 	B	<p>【○】人権LHRや人権教育講演会を通じて、他者を思いやり、自分の生き方を振り返るきっかけとすることができた。</p>
健康安全教育の推進	健康・安全教育の推進と環境整備の推進	健康教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 治療勧告生徒の受診率を向上させる。 生徒の健康状態に応じた個別指導を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 長期休業前や定期考査前を目処に治療勧告書を渡し、治療の必要性について呼びかける。メール配信を利用する。 健康観察を徹底させ、健康状態を把握した上で個別の保健指導につなげる。 	B	<p>【△】長期休暇前に2回治療勧告書を発行した。3月に再度行う予定である。休暇の短縮のためか治療率の上昇はなかった。</p> <p>【○】健康観察及び担任からの情報共有により生徒の様子を知ることができた。併せてコロナ対策としての体温記録等も実施し、感染症の対応や保健指導につなげることもできた。</p>
		環境美化の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 授業終了後、速やかに掃除場所へ移動し、時間一杯清掃して、校内美化に努める。 ごみの分別を習慣化する。 学校版環境ISO活動(エコスクール)に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 担当職員が率先垂範して指導を行う。 学期に1回、校内美化コンクールを実施し、掃除の仕方を振り返る機会を設ける。 分別のスリム化や分別しやすい表示等の工夫により、分別の習慣化を図る。 保健部会、生徒生活委員会を中心に全職員・生徒で取り組む。 	B	<p>【○】2学期と3学期に1回ずつ美化コンクールを行い、細かな点検項目に従って採点をしたことで、日頃の掃除の際にもどこに注意して掃除を行えばよいか、具体的なイメージを持たせることができた。</p> <p>【△】生活委員などを中心にごみの分別を呼び掛けることはできたが、コロナウイルス予防の換気を行ったため、冷暖房の電力量が上がり、節電は思うようにできなかった。</p>
	整備の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 安全点検を活用し、危険箇所の改善を迅速に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 掃除用具の点検を定期的に行い、迅速に改善する。 毎学期、安全点検を行う。 	B	<p>【△】2学期に1回、安全点検を実施し危険箇所や修繕箇所を把握することができた。</p>	
いじめ	指導体制の組織的整備	<ul style="list-style-type: none"> 縦(管理職、他学年)と横(学年団)のつながりを密接にした組織づくりをする。 管理職を含む複数の教職員、専門的な知識を有する臨床心理士等による「いじめ対策拡大委員会」を実効的に 	<ul style="list-style-type: none"> 素早い情報共有と、迅速な対応を心がけて行動する。また、保護者にも連絡をとり、対応の説明を行う。 生徒指導部会やアンケートで得られた情報を共有し、生徒への事実確認、保護者との連携、対応方針の決定等を組織的に行う。 	A	<p>【○】生徒指導部や管理職と連携し、アンケートで発覚した問題行動に迅速に対応できた。気になる生徒との面談や保護者への連絡を密に行い、連携して対応できた。</p> <p>【○】学年会や生徒指導部会をおとして生徒の細かな変化まで意見交換をし、情報の共有化を徹底した。</p>	

の 防 止 等			活用する。	・年間指導計画の作成・実行・検証・修正の中核的役割を果たす。	【○】生徒の問題行動が発生した際、迅速に対応することが出来た。また、保護者と連携を密に取り今後の指導方針や学校の対応について丁寧に説明を行った。
	未然防止及び早期発見のための取組みの強化	いじめの防止	・互いのよさや個性が大切にされ一人ひとりが尊重される人間関係や学校風土を構築する。	・各種の講話や講習会、LHRを有効に活用し一人ひとりの心に迫る。 ・「心のきずなを深める月間」により、生徒会を中心とした取組を通して、生徒一人ひとりのいじめ防止の意識を高める。 ・定期的にクラスや学年で雰囲気づくりに関する声掛けや、標語などの掲示を行う。	B 【△】情報モラルのLHRを6月に行った。SNSの望ましい使用法やネットトラブルの具体例を挙げながら注意喚起を行った。しかしながら、その後生徒による不適切な使用が見られた。情報モラルに関する指導の徹底はもちろんのこと保護者と連携を取りながら、学校および家庭での指導を強化していく必要がある。 【○】クラス独自のレクレーションを通して親睦を深めたり、個々の良さを認めたりする場面づくりをすることができた。 【○】各クラスでの呼びかけができ、生徒の意識が高まった。
		いじめの早期発見	・「いじめほどの学校にも起こりうる」という認識に基づき積極的に対応する。 ・いじめに対する意識を高く持ち情報共有を行う。	・学期に1度のアンケートや個人面談などを通じて、生徒の異変やサインについて積極的な実態把握に努める。 ・いじめ通報アプリも活用して、いじめの早期発見に努める。 ・学年会などの情報を保健部会・生徒指導部会で共有する。	A 【○】各学期1回のおいじめに関する「生活アンケート」（2学期は心のアンケート）を実施し、生徒の人間関係を的確に把握しいじめの防止、発見に役立てた。アンケートが有効に機能した。 【○】学年会では常に活発な情報共有ができ、各部へ伝えることができた。SCなども活用しながらいじめ事案に速やかに対応することができた。
	いじめへの対応	・組織的に対応し、早期の解決を図る。	・「対応マニュアル」に則り、組織的に迅速な情報収集を行い事実の確認を行う。 ・被害生徒を守り、加害生徒にも適切に対応する。	A 【○】マニュアルに沿った対応ができた。 【○】各学期1回のおいじめに関する「生活アンケート」（2学期は心のアンケート）の結果を受けて、いじめを受けた・見たと回答をした生徒に対しては、学年・担任と連携し、迅速な対応を取った。各学年会や生徒指導部会、いじめ防止対策委員会で情報の共有を行った。	
地域 連 携 (コミュニティ・スクールなど)	防災型 コミュニ ティ・ス クール	地域連 携の組 織づく り	・地域や自治体等との連携した防災対策の基盤を作り、活動へつなげる。防災対策の充実を図るためマニュアル等を用いて地域や自治体等と連携を行う。 ・年2回の合同会議を実施する。	・地域や自治体とともに近隣学校とも連携や情報共有を行う。 ・作成した対応マニュアルの改訂(チェック)を行い、より実効性の高いものにする。	B 【○】年間2回の防災避難訓練も実施できず、11月に放送を使用したシェイクアウト訓練等代替を行った。学校運営協議会も書面での報告を2回実施した。また、今年度は土砂災害に関する避難確保計画を作成することができた。今後も連携と情報共有を行っていく。
	高校間 の連携	地域へ の情報 発信	・天草地域の高校の取組を地域住民に周知し、魅力を伝える。	・天草地区の高校が中学生、保護者、教職員に魅力を発信する機会を企画し、実施する。	C 【△】高校間連携による直接的な情報発信の企画は実施できなかった。各校の取組を紹介するポスターとクリアファイルを作成し配付した。

4 学校関係者評価

主な意見としては、

- ・コロナ禍において学習時間が制限されたにも関わらず、大学進学実績（総合型・学校推薦型入試の結果を受けて）が上がっている。休校期間中のオンライン学習や再開後の授業の工夫等で、教育の質が向上しているものと思う。このような実績をもっとPRして、入学者を増やして欲しい。
- ・校内に入れば進路実績などを見ることができるが、交通量の多い道路にPR看板を設置するなど工夫が必要である。
- ・天草学校のホームページには、休校期間中から先生方から生徒に向けたメッセージが連続して配信されており、生徒の励みになる。大変よい取組である。
- ・天草高校のホームページは、生徒の取組が随時掲載され充実している。さらに中学生や地域に対して見せる工夫を行い、生徒募集につなげて欲しい。
- ・地域でボランティア活動を行っている生徒が沢山いる。地域社会の一員として社会貢献の精神が育っている。

などがあった。

こうした意見を真摯に受け止め、今後も教育活動の充実に向けて取り組んでいきたい。

5 総合評価

(1) 全体について

自己評価においては、8個の大項目に対して38の具体的目標及び方策を設けて評価を行った。結果は、A評価が10個(26.3%)、B評価が26個(68.4%)、C評価が2個(5.3%)、D評価は0であった。昨年と比較すると、Aの割合は3.4ポイント減少し、Bの割合は1.9ポイント減少、Cの割合は5.3ポイント増加、Dの割合は同じ(0)であった。C評価の項目は、コロナ禍において計画どおりに実施できなかったことによるものである。

(2) 本年度の重点目標について

○人権尊重の精神の涵養と基本的生活習慣の確立に努め、豊かな人間性の育成を図る。

基本的生活習慣や規範意識の確立に向けて、登校指導や整容指導、面談などに取り組んだ。いじめ防止については、人権意識の高揚、情報モラル教育を推進しながら、継続的に取り組み、早期発見、早期対応をすることができた。体育大会や文化祭等の学校行事では、コロナ禍において開催の判断、感染拡大防止対策を踏まえたプログラム作成など、生徒が中心となって企画運営を行う中で、自主性や社会性の育成につながった。

○主体的に学習に取り組む態度を養い、一人一人の進路目標達成に応じた学力の向上を図る。

教科指導に関する内外の講師による職員研修や研究授業、公開授業での研鑽を行い、教員一人一人が指導力の向上に努めた。アンケート「授業は工夫され、学習意欲が沸いてくる」の項目では、82%の生徒が肯定的に捉えている。一方で、「先生方は、適切な課題を与え学習習慣が身につくように指導している」の91%に対し、「家庭学習時間は週1200分を越えている」生徒は43%に留まっている。今後、さらに重点化して取り組んでいく必要がある。

進路実現については、キャリア教育の充実を図り、一人一人の進路目標に応じた計画的で細やかな指導に努めた。また、大学入試制度の変更に伴う入試問題の出題傾向に応じた学習指導を行った結果、国公立大学を始め多くの進路実現を果たすことができた。

○地域の進学拠点校として、地域、保護者、生徒の信頼と期待に応え、入学者の増を図る。

進路実績、SSH研究指定事業の成果、学習支援ボランティア、地域イベントの企画運営等での地域連携や地域貢献の取組などの情報発信を行ったが、入学希望者の増加につなげることはできなかった。

○学校における働き方改革を推進する。

業務の効率化、削減、計画的な業務遂行を図るとともに、教職員の働き方に関する研修を行い、意識改革をすすめた結果、超過勤務時間を10%削減することができた。

6 次年度への課題・改善方策

(1) 学校経営

SSH活動や生徒の主体的取組を充実させるなど学校の特色化を図り、教務部や育友会の広報活動など、入学志願者確保のために様々な取組を行ってきたが、今春の本校入学希望者は募集定員を下回る結果となった。さらなる本校の魅力化を図り、地元の中学生や保護者のニーズを踏まえた、情報を積極的に発信するなど、今後も引き続き生徒募集の取組を充実させていかなければならない。

指定最終年度となるSSH事業は、これまでの取組を充実発展させ、科学技術人材の育成に向けてさらに進展を図っていききたい。また、指定後も科学技術人材育成が本校の特色となるよう、2期申請に向けて準備をすすめる。

昨年度に引き続き、学校改革と働き方改革を推進し、負担感軽減と教育の質の向上に取り組んできた。超過勤務時間は全体的に減少しているものの、依然として多い状況にある。今後も更なる業務の効率化と生徒の自立的で主体的な取組の推進の視点から改善と充実を図っていく。

(2) 学力向上

次年度も継続して、「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進するとともに、思考力・判断力・表現力の育成に向けて、ICTを活用しながら、生徒が活発に思考を廻らし議論を行うような授業づくりに努めていかなければならない。また、確かな学力の定着のために保護者と連携して家庭学習の充実も図っていく。

(3) キャリア教育の充実

人生観に基づく進路選択・決定のために、高校3年間を見通したキャリア教育をさらに充実させる。ガイダンス機能とインターンシップ等の体験活動を強化し、望ましい職業観、勤労観を育み、生徒一人一人が目的意識を持って日々の活動に取り組む態度を育成する。そのために教育活動の全領域においてキャリア教育の視点をもって取り組む。

(4) 生徒指導、人権教育の推進及びいじめ防止の徹底、健康安全教育の推進

基本的生活習慣及び規範意識の確立に向けて日ごろから全職員で取組を進める。人権感覚を高め、いじめのない学校づくりを目指すとともに、SNSの使い方についても実態に応じた指導を行い、健全な心身の育成に努める。交通安全についての意識をさらに高め、交通違反及び交通事故0を目指す。コロナ禍における感染予防の徹底を図る。

(5) 地域連携の推進

地域や地域の小中学校との密な連携をとおして、学校の発展と地域の発展に努めていきたい。そのため防災型コミュニティ・スクールや学校評議員会において、地域防災、人材育成、地域活性化、ボランティア活動などの観点で連携を深め、地域に信頼される学校として教育の充実を図っていききたい。